

ソロハンターの生態13 WORLD



adult only

Yokohama Junky



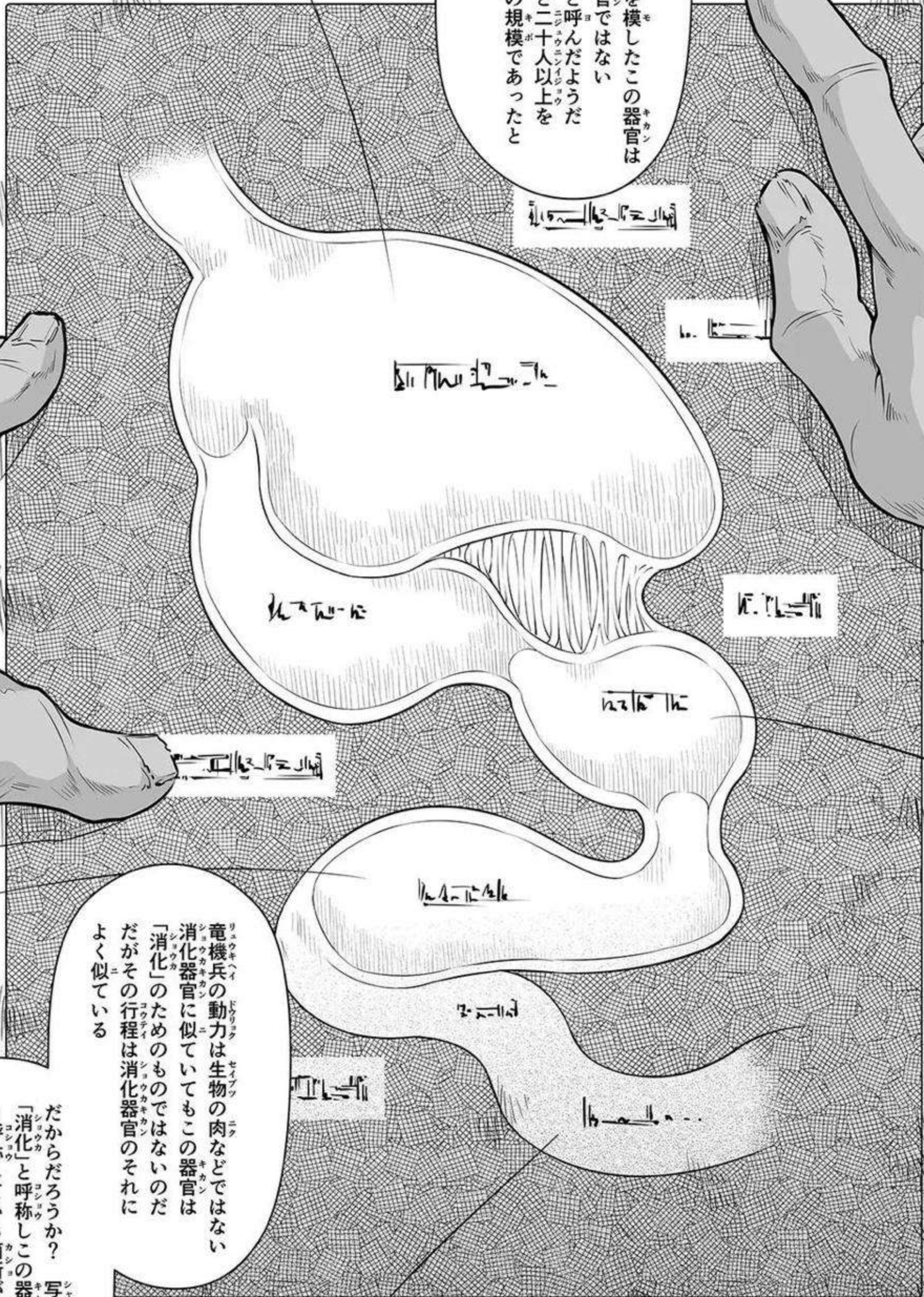
前回までのあらすじ

プエラの客人である小男は秘密裏に巨大な龍の臓器を造っていた、小男を信用していないプエラは彼に監視をつけていたが監視役の女は小男の罠に嵌り、人造巨龍の臓器に取り込まれてしまう。

イコール・ドラゴン・ウェポンと呼ばれたその巨龍の臓器は抵抗するプエラの女を飲み込み、彼女を最初の「胃」へ送り込んだ獲物を得て活性化した消化器官は小男の意図通りに本来の役割を全うしていく――

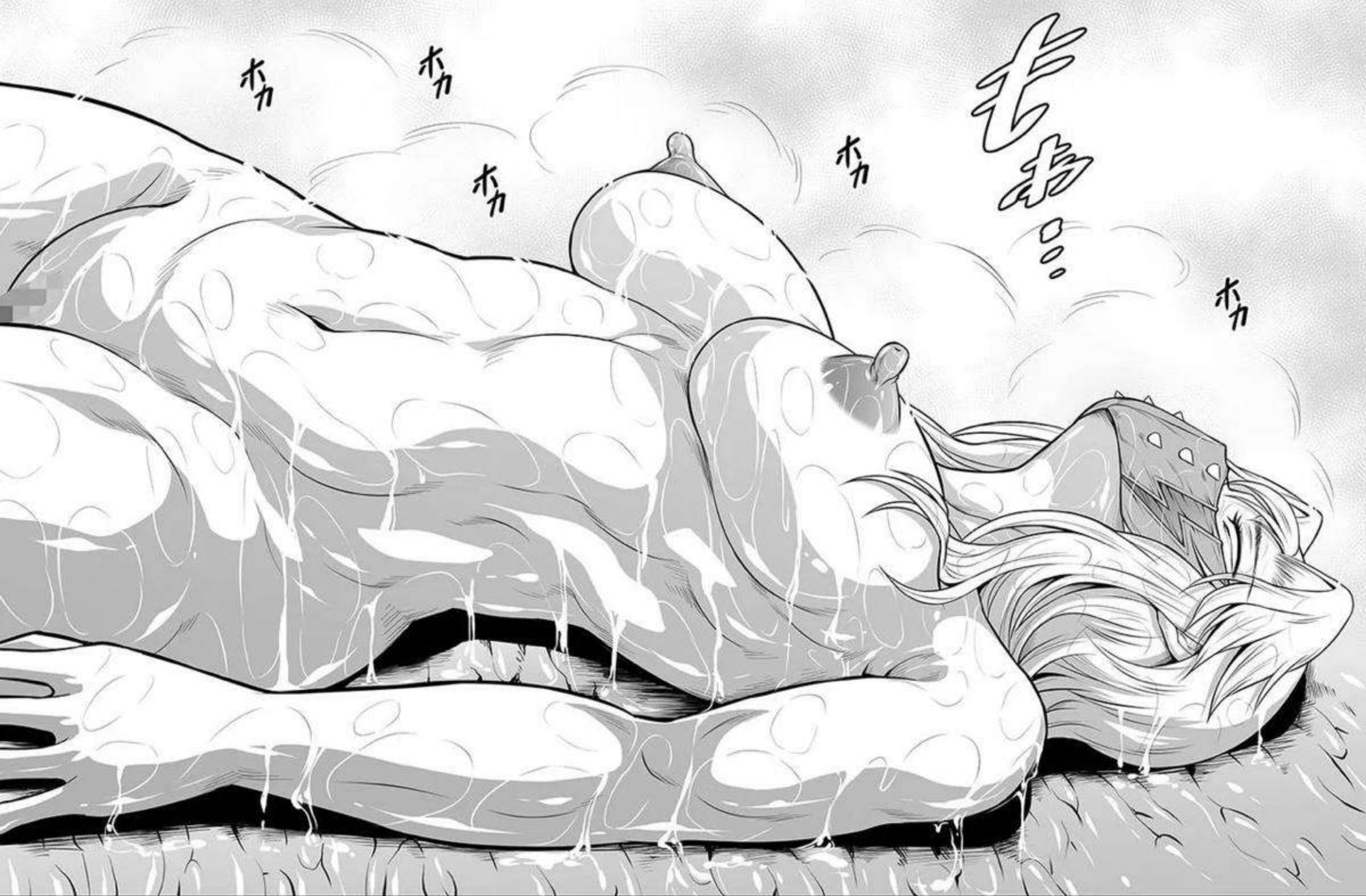
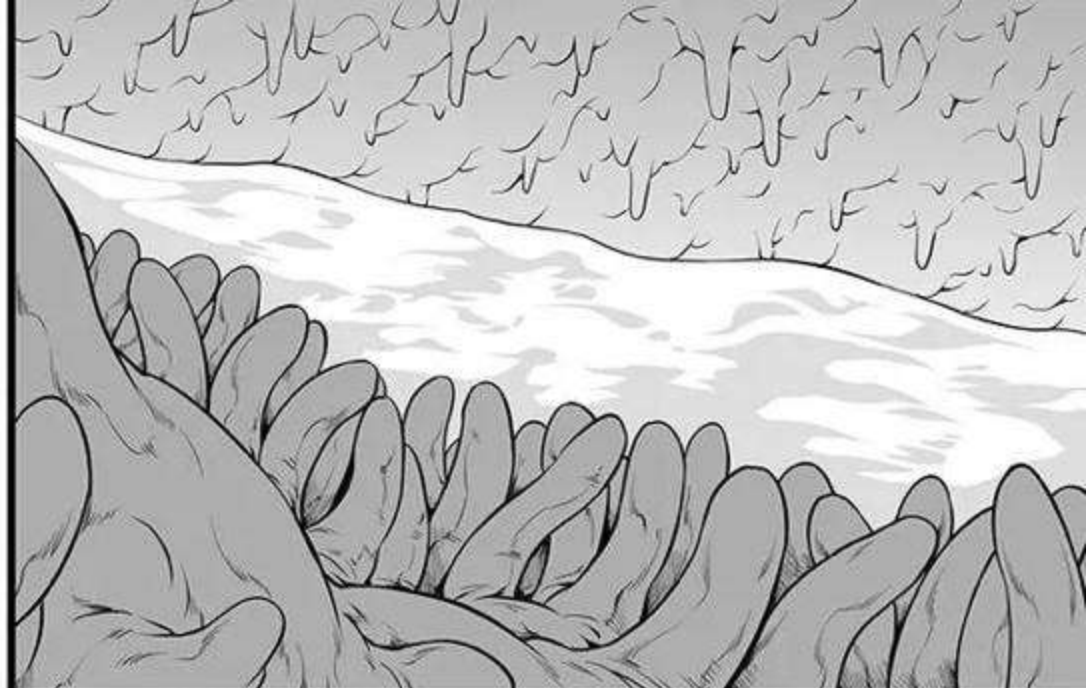


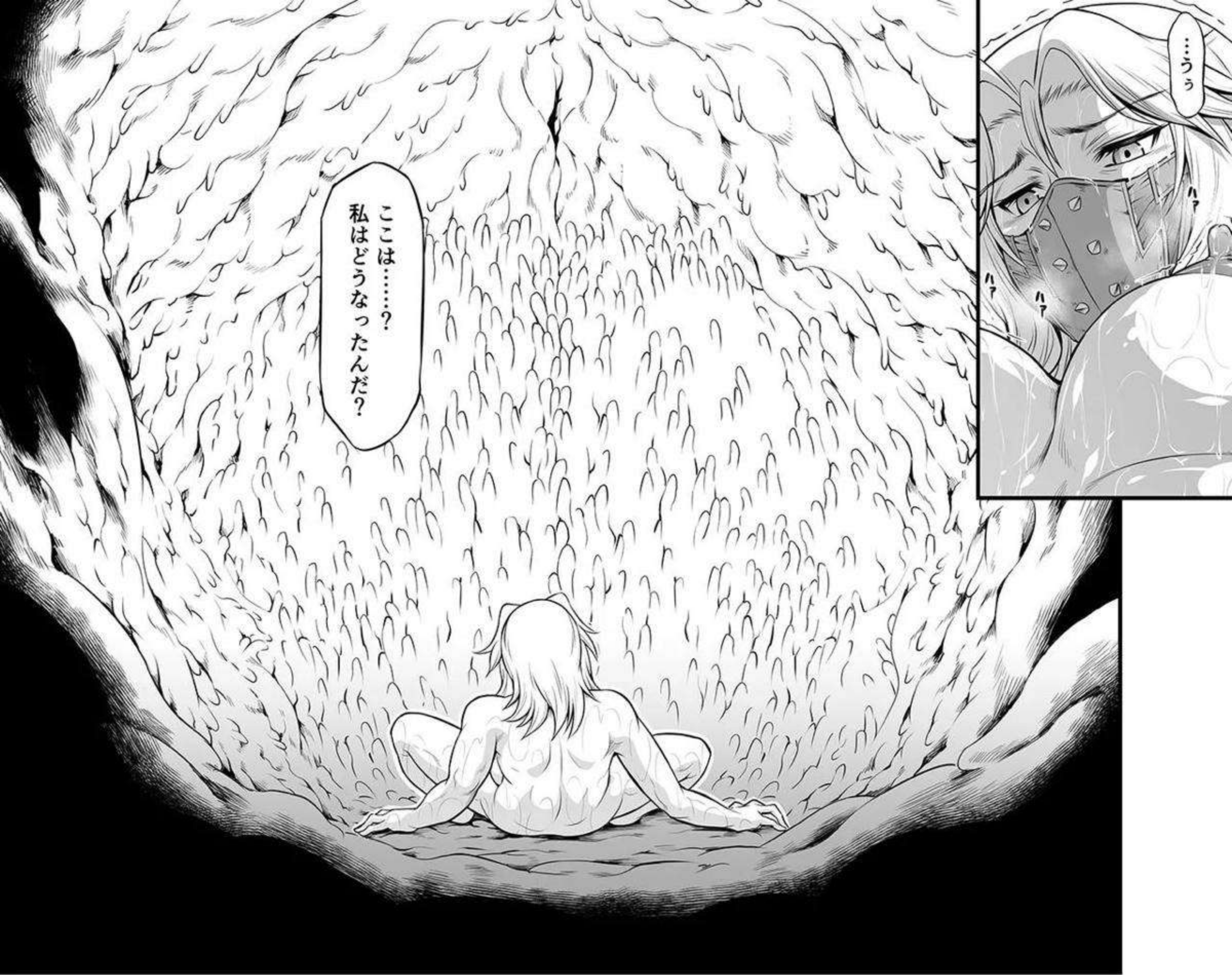
生物の消化器官を模したこの器官は
正しくは消化器官ではない
創造者は操兵囊と呼んだようだ
大型の物になると二十人以上を
収容できるほどの規模であったと
記述されている



竜機兵の動力は生物の肉などではない
消化器官に似ていてもこの器官は
「消化」のためのものではないのだ
だがその行程は消化器官のそれに
よく似ている

だからだろうか？ 写本には行程を
「消化」と呼称しこの器官を「消化器官」
と呼称している箇所が多々見受けられる
……いや消化されているのか……
肉などより重要な物が……







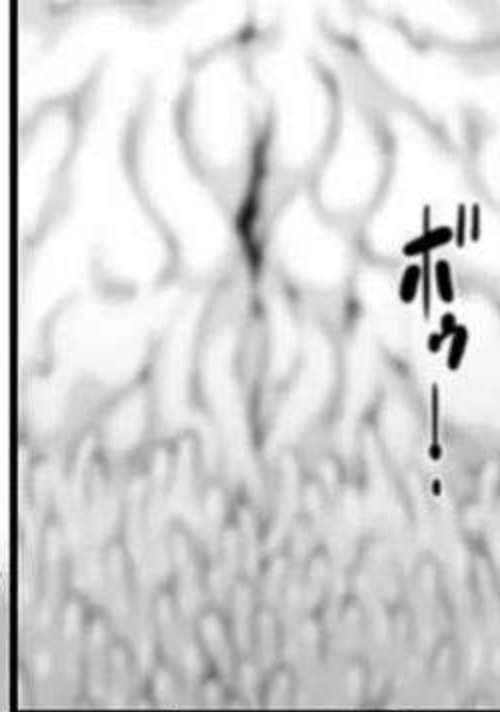
……クソッ
なんて暑さだ

一つ目の囊には多数の微生物が生息している
その特殊な微生物の為の完璧な環境が
構築されている 微生物はこの囊の中でしか
生きることが出来ないだろう

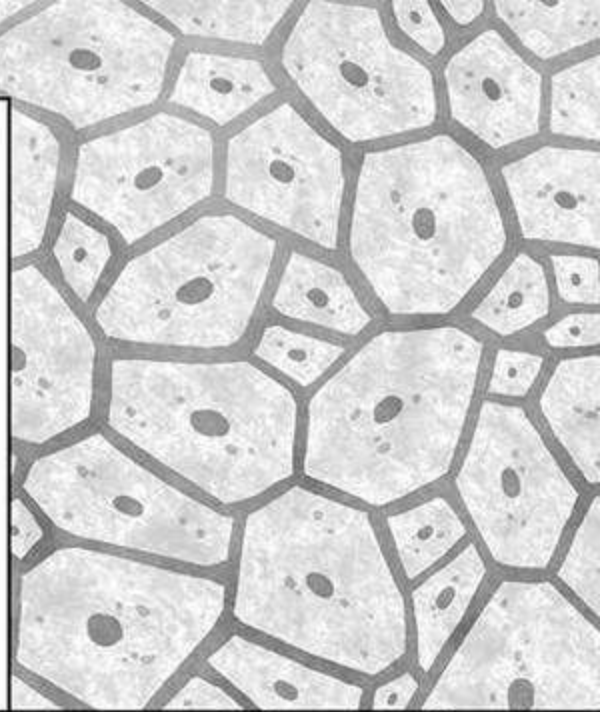
『洗酵』とはその微生物を人の体内に入れ込む手順だ
周囲の温度を人の体温と同等に保つ事で微生物は
人の体内に入り込みやすくなる

体力は二割と言ったところか……
暑さで脳がボーッとしている
早く行動を起こすべきか





人の体内に入り込んだ微生物は
自分達が異物の中に入った事を悟り
人の細胞に擬態して
駆除されぬように潜む



しかもこの感覚は……
いや そんなわけはない

出口は見えているんだ
とにかく先に進むしかない



突起が……足に……
絡みついてくる……



微生物に寄生された宿主は
思考力や運動能力の低下と言った
様々な症状を見せる
中でも重要な特筆すべき症状が
一つある それは――

これをかき分けて
進む必要があると
いう事だ……

奥へ行くほど突起物が
長くなっているのか





キョウレツ
セイショウドウ
強烈な性衝動



下腹部が熱い……
極上の愛撫を受けながら
延々と焦らされているような
もどかしく切ない感覚……

無数の突起が優しく
まとわりついてくる
まるで意図的に私の体を
刺激しているかのようだ



一回だけ…この突起物を使って
一回だけイこう

これだけ昂ぶっていれば
すぐ絶頂できる
大きな問題はないはずだ

なぜそのような症状が出るのかは
当時から意見が分かれていたようだ

うっ♡

ぐうっ♡

一説には異物(微生物)によって肉体を支配される前に
子孫を残そうとする本能によるものとされる
また別の説では微生物によって脳を刺激されたことによる
肉体の反応だと言われる

その性衝動は日常で感じるそれとは全く異質な物だ
対象が男である場合は性器に触れずに射精する程の
ものだと言われている

突起の刺激はあくまでも優しく
丁寧に私の性感を高めてくれる

まるで私の劣情に応じるかのように
突起が性器に絡みついてくる

これほど満たされ
る高まり方は初めてだ
ただ腰を振り快楽を
求めるだけで……
こんな……

ああ……イク……イケる……
生命の危機にさらされて
いるかもしれない時に……
私は……

どうあれ例外なく現れる症状であるのだ
この性衝動は竜機兵の偉大な臓器の機能を
完璧に機能させるためにとても有用なものだ

あああ！もうどうでもいい！
イギたい！変態女で構わない！
きもちいい！きもちいいいい！！



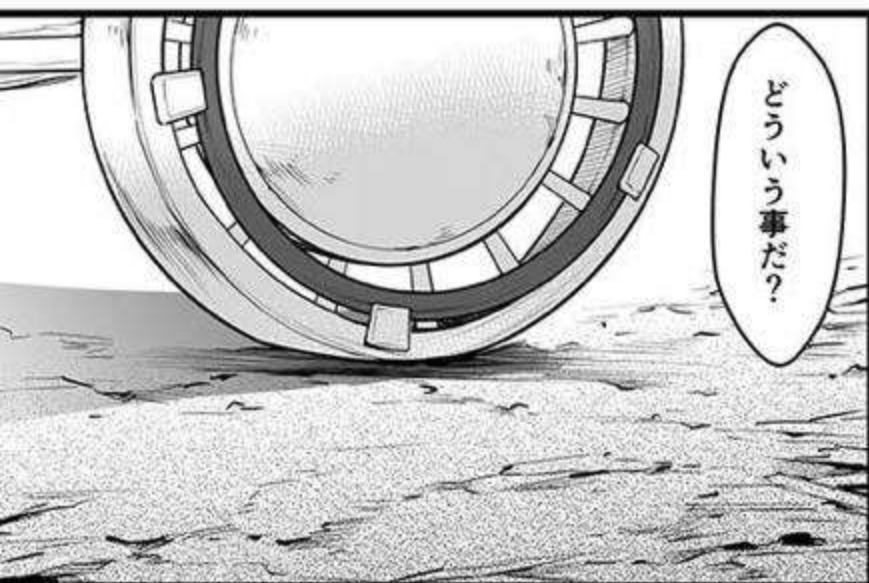
イグつつつ！！

イグうううっ！！









どういふ事だ？



我々は引き続き搜索を
続けるが……今のところ
まるで手掛かりが掴めない
姿を消すのが相当に
上手いヤツだ

いったい何者だろうな……
とにかく女は消えた

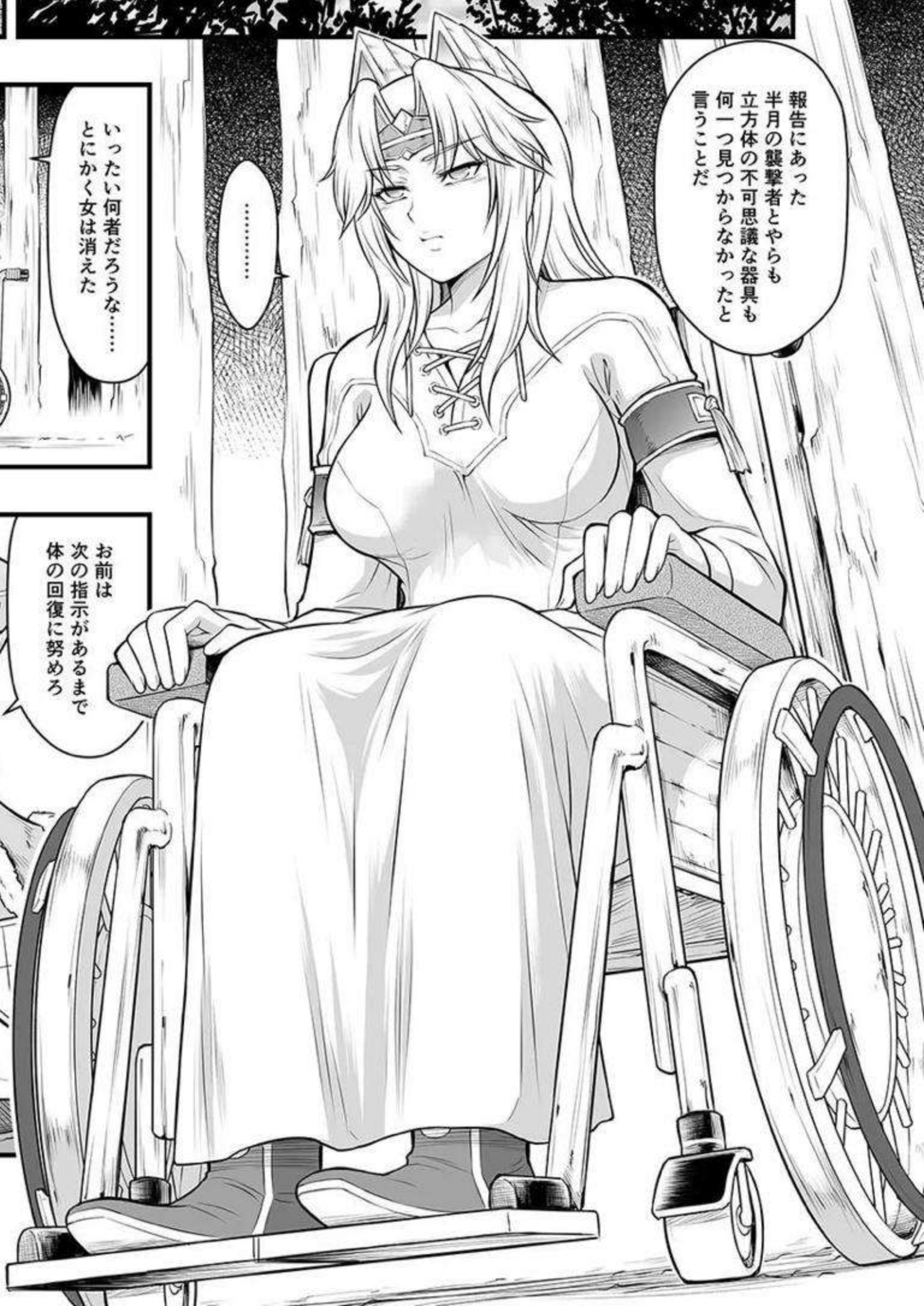
報告にあった
半月の襲撃者とやらも
立方体の不思議な器具も
何一つ見つからなかったと
言うことだ

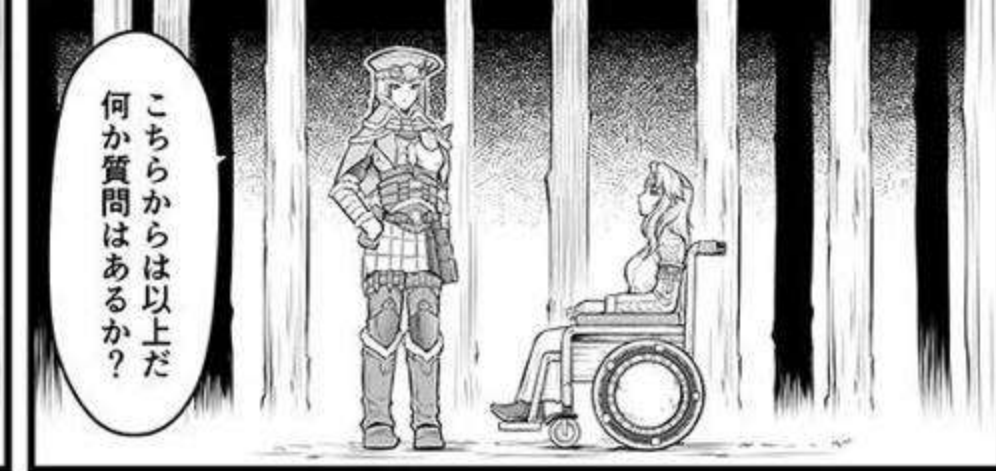
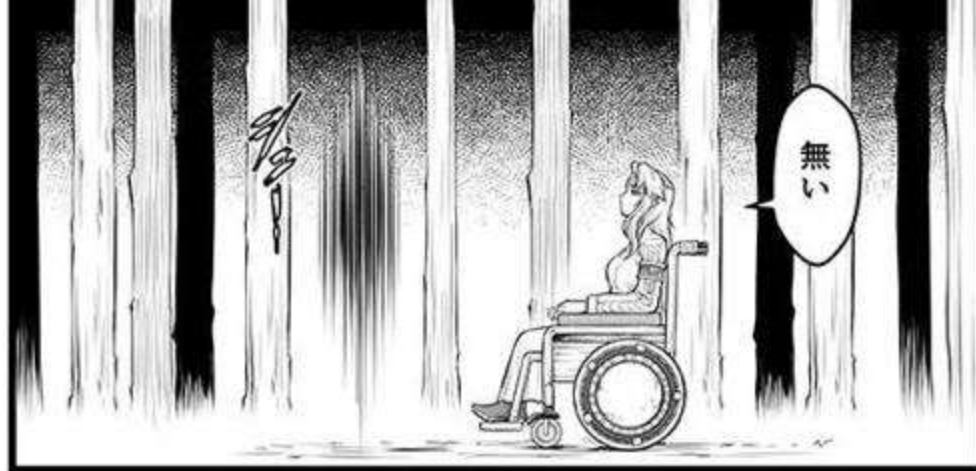
……



そう長い休息は取れないだろうが
そのザマでは任務に支障が出る
早急になんとかしろ

お前は
次の指示があるまで
体の回復に努めろ





膣を限界まで締めて
この振動する張り型の音を
出来る限り消した

快楽に高揚しても
表情には出さなかった
……気付かれてはいないはずだ

いや……この牝の淫臭は
隠しきれていたのか？

報告を受けながら
私は二度絶頂を迎えていた
堕ちきったこの肉体の牝臭を
嗅がれてしまったのではないか？



私が快楽に忠実な変態女に
改造されてしまったという事に
気付かれてしまったのでは……？

もし私が受けた肉体的ダメージが
こんな物だと知られたら……



私は……

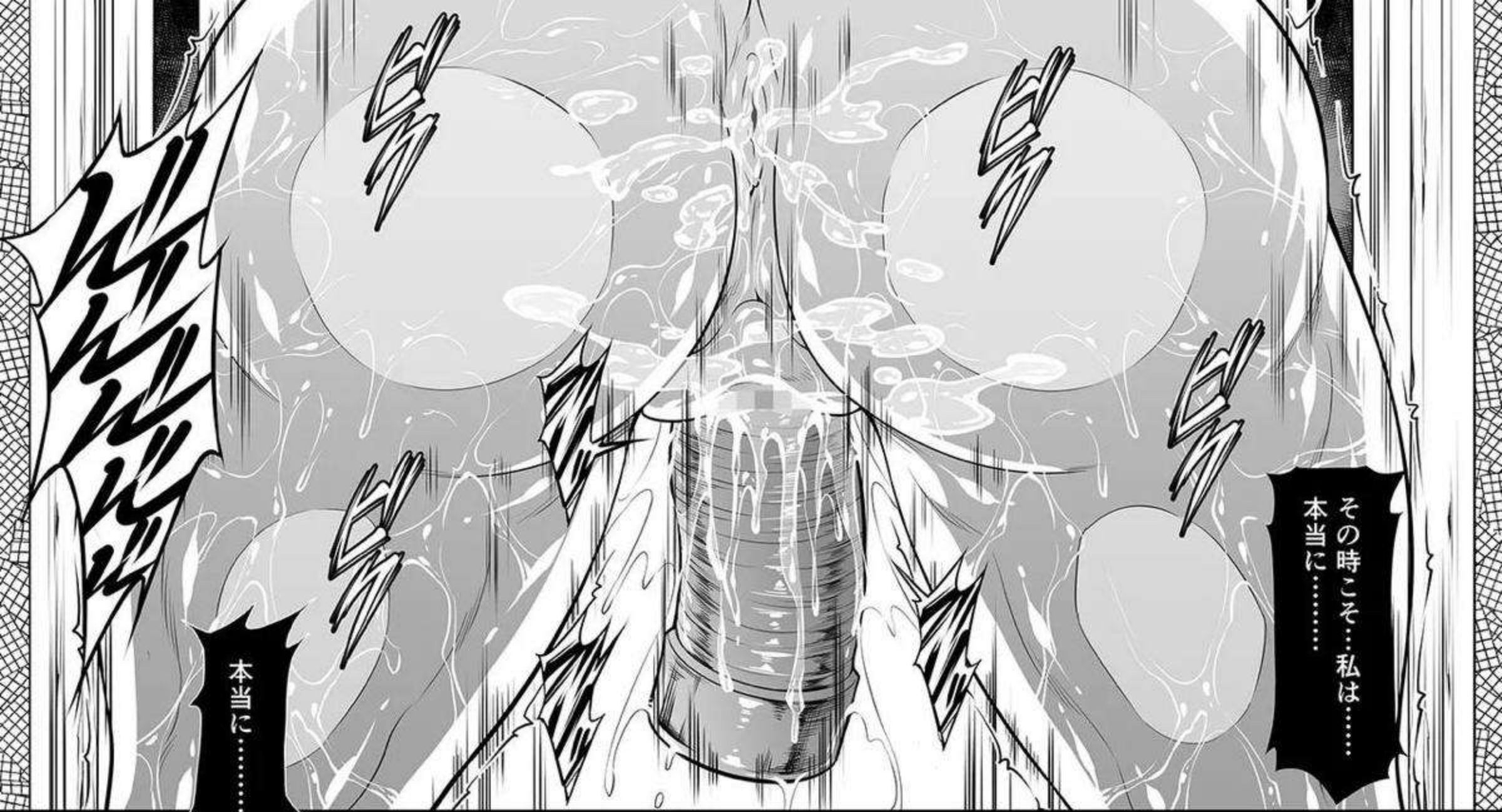
私は……



また私を狙うだろうか？

あの女が逃げおとしている
私をこんな体にしたあの女が……

今度こそ私を完全な
肉奴隷にするために……

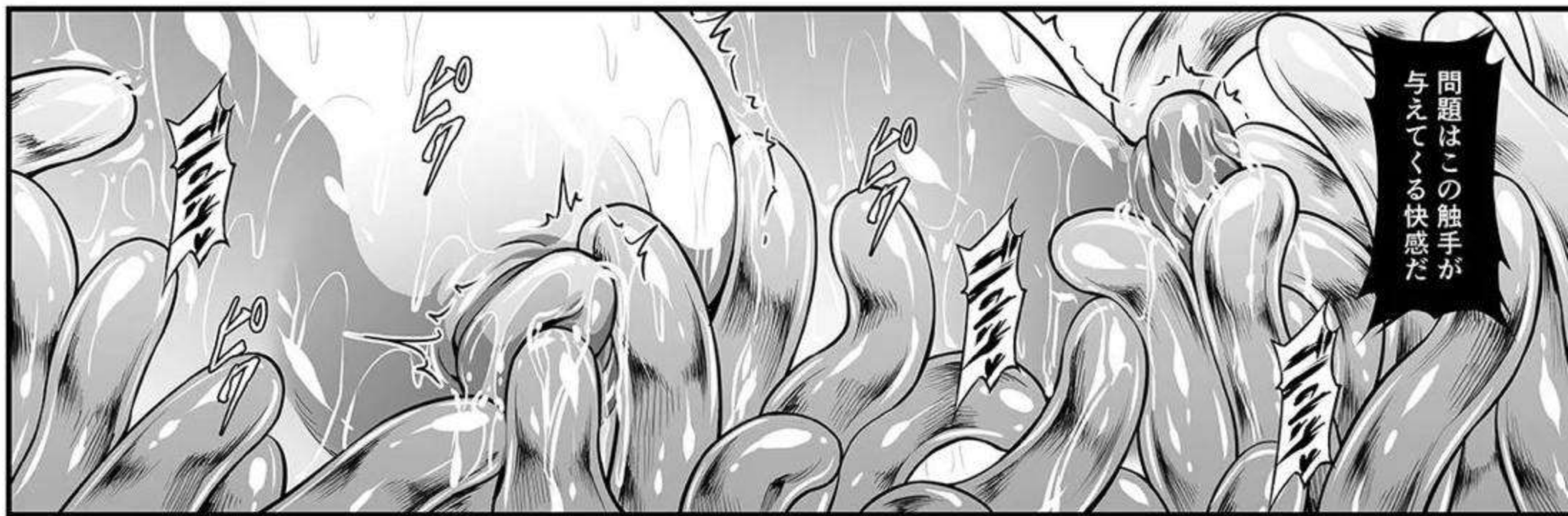




高さはたいしたことはない
滑りやすいが凹凸も
はつきりしている



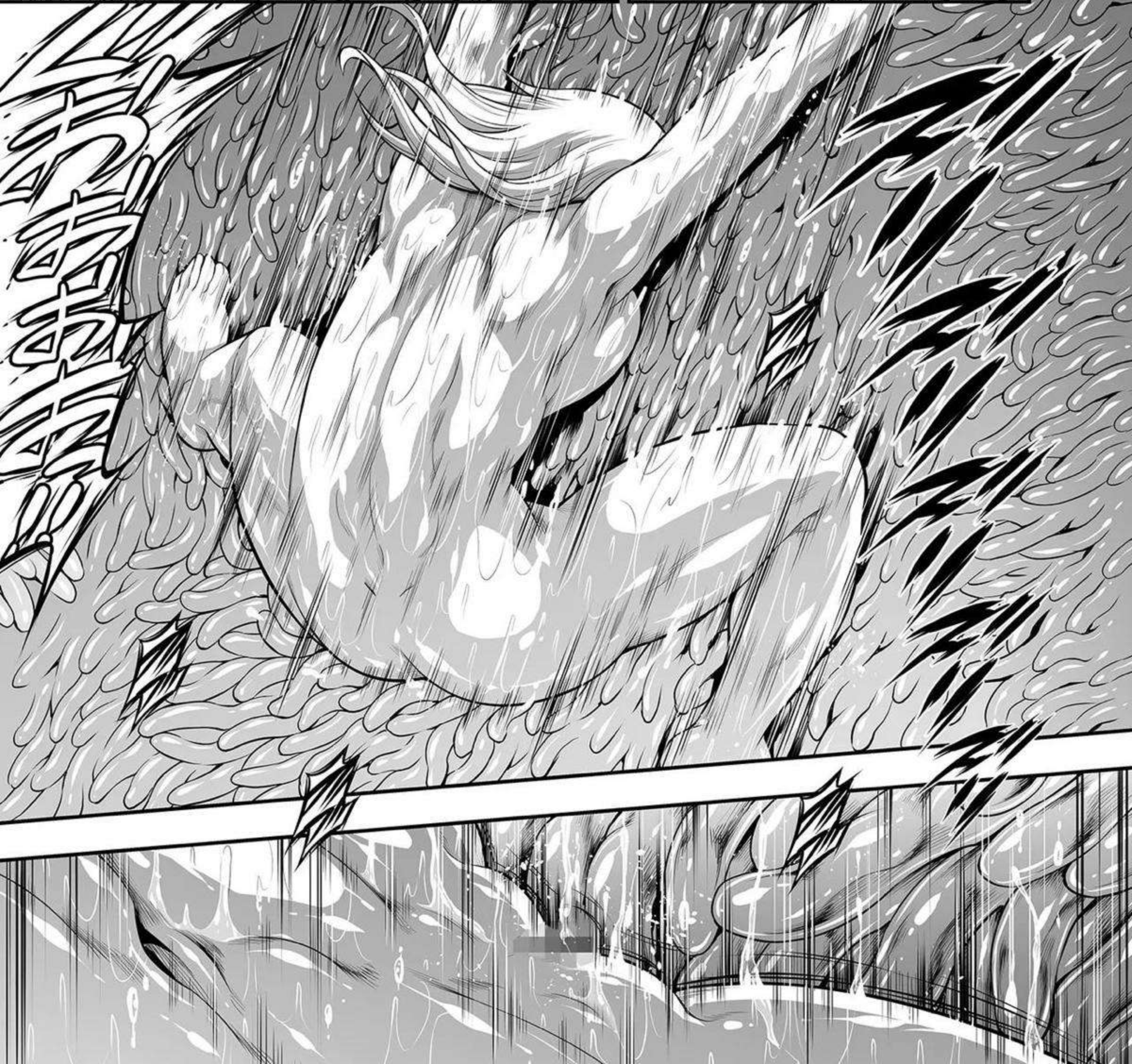
登る事そのものには
それほどの障害はない



問題はこの触手が
与えてくる快感だ



私は少し登る度に
体勢を崩さないように
静かに絶頂するしかない





イッてるのにイグ!!
うぎイイイイイイ♡♡♡

イグイグイグイグ
イグイグイグイグ♡







登らなければ……

自分のマゾ性を自覚させられる……
この状況で私は効率よく最短で
登ろうとしていない

日々の鍛錬で鍛え上げた筋肉さえも
快感を得るためのスパイスに成り下がっている

より快感が得られそうな
気持ち良くイク事が出来そうな
ルートを選んで登っている

筋肉は悲鳴を上げ肉体は限界まで
追い込まれる そのギリギリの状態で
絶頂を迎えると凄まじい快感で
意識が飛びそうになるのだ

そう あえて不安定で困難なルートを
選ぶ事で筋力を酷使しなくてはならない

絶頂したら意識を失わないように耐える
それは危機感からではなく、そうすることでより長く
一層気持ちの良い絶頂を味わえるからだ

長
い
い
い
い
♡

きっと私はそういう女なのだ

深
い
い
い
い
♡

腕っ節の強さという鎧を纏って粹がっついていても
その鎧の内側はただ牝の悦びを求めて
股を濡らしているだけの変態女だ

クッロロロ



絶頂が凄まじく長い
快感がまるで引いていかない



このままでは身動きが取れない
絶頂したまま登るしかない



クラック
裂け目!?



……少し



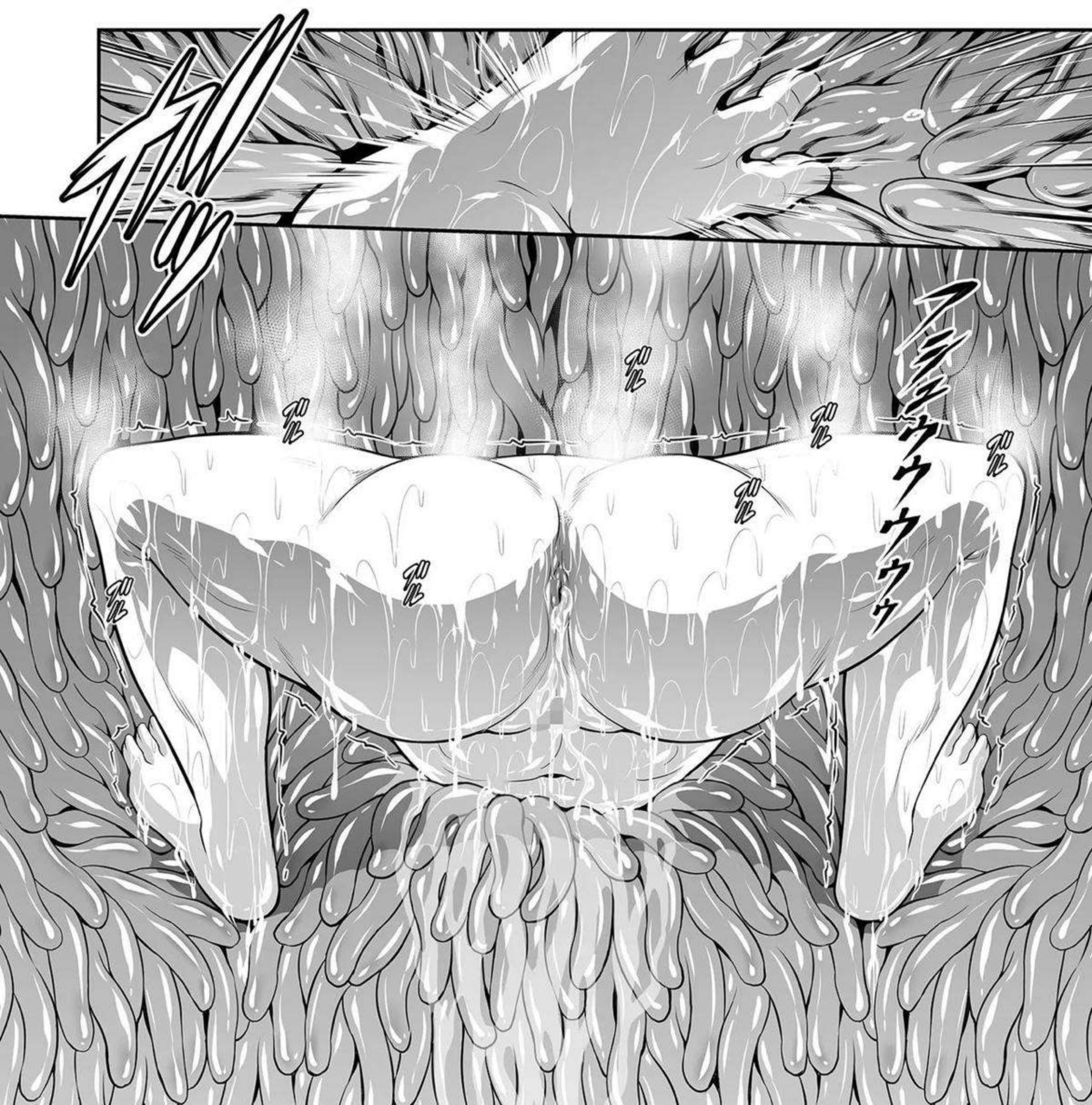
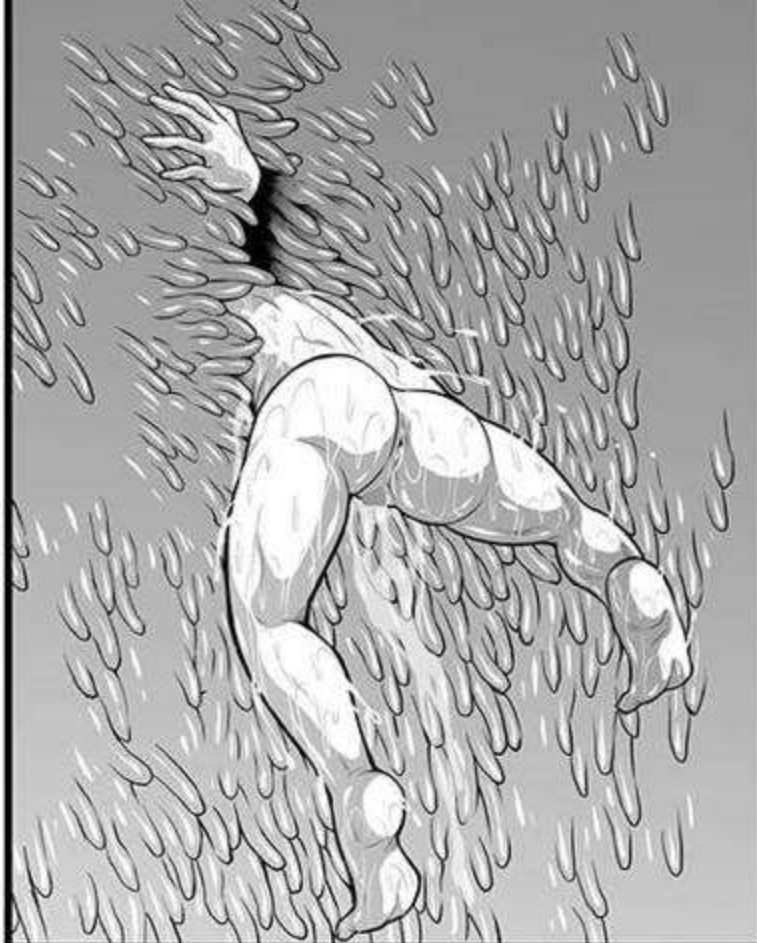
あと少し……

あと少し……

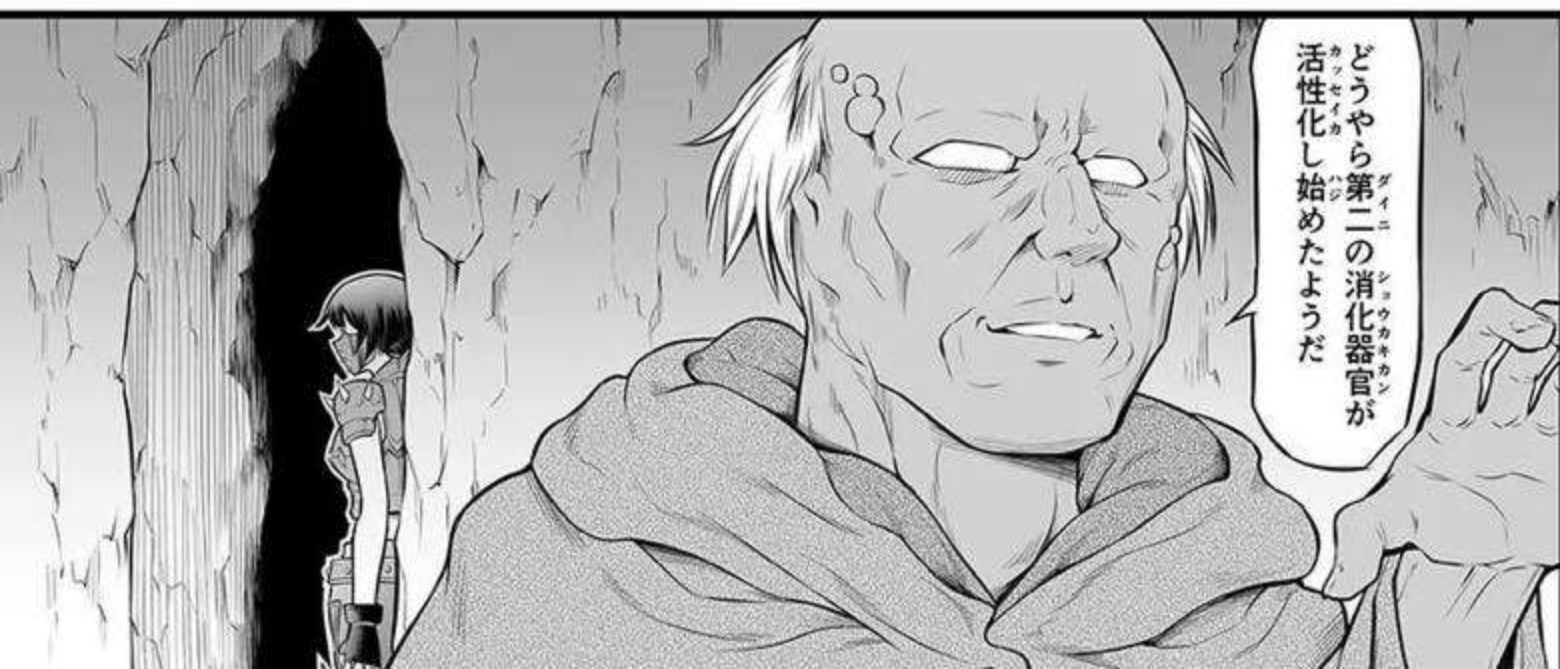
あと少



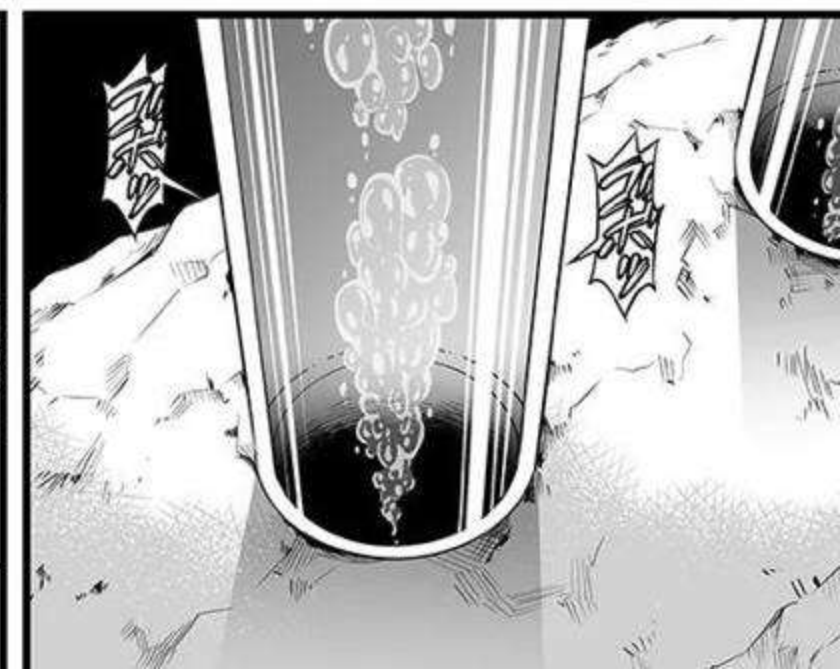
あとほんの少しだ
絶頂しながらでも
登り切れる







どうやら第二の消化器官が
活性化し始めたようだ







コイツらは二人一組で行動すると
忠告していたのだがな



まあ丁度良い
私は今機嫌が悪いんだ

お前で憂さを晴らすとしようか

TO BE CONTINUED

ソロハンターの生態 WORLD 13



発行 YokohamaJunky

発行者 魔狩十織

web <http://yokohamajunky.com/>

email mail@yokohamajunky.com

※この物語はフィクションであり、実在の人物団体及び各種設定も一切関係ありません
尚、18歳未満の閲覧、購読は禁止です

ソロハンターの生態13 WORLD

presented by Yokohama Junky